

連載

3 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した 私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (62歳・内科)

ネコ屋敷A子さん ～A子さんの思い～



前回のお話のA子さん宅は、ネコや犬やネズミが同居するというゴミ屋敷でした。

Aさんは高齢で、五感(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)が低下し体力も弱まっていたので、その様な環境で生活をしていました。

ある日、Aさんは夏の暑さで熱中症になり緊急入院する事になりました。その後、無事退院されたのですが、当院には何の連絡もなく、知らないうちに他院に移られていたのです。

私たちスタッフは、Aさんの為に家も掃除をし、在宅医療にて病気の治療を行い、当院のデイケアで楽しく過ごし元気になっていたのも、きっと感謝してくださっているだろうと自負していました。それなのに

どうしてだろうと、気になって仕方ありませんでした。

Aさんの気持ちがどうしても知りたい私たちは、お宅に伺う機会を得、いくつかお訊ねしてみました。「あなたの為に、今後も以前の様に在宅医療訪問してもかまいませんか？」

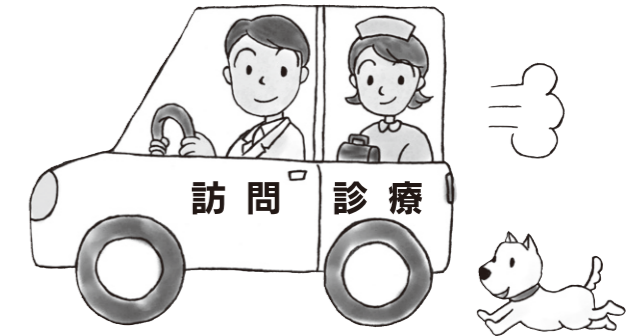
「はい、以前の様に往診に来てください。お願いします。」
「それならばなぜ退院された後、連絡もなく他院を受診されたのですか？それは周囲の方たちのすすめだったのですか？それともあなたの希望だったのでしょうか？」
「それは私の希望でした。以前、デイケアバス利用日を私だけ近所の人たちとは違う日にされました。……私は差別されたと思って……それがとても嫌だったんです……。」

A子さんの意思とは反して、町内の方々はゴミ屋敷に住む彼女と同じ日のデイケアを嫌がり、同じ日ならば参加しないという意見が多くやむをえない決断だったのです。しかし、それはA子さんの“心”を傷つける結果となってしまいました。

そこに高齢者の“魂の叫び”の奥深さ、在宅医療の真髓をみた気がしました。

Aさんと私たちの信頼関係はなんとか持ち直しましたが、この事が周囲の関係者の方々にも大きく影響を与える事となってしまい、しばらくしてA子さんへの在宅医療をご遠慮させて頂くことといたしました。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>